

# ねりまの文化財

特別展 開催中

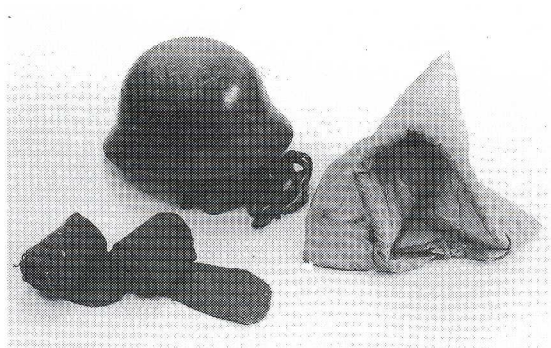
## 配給・疎開・空襲 戦時下の練馬

平成4年2月29日まで

郷土資料室

石神井図書館地階

☎ 3996-0563



巻脚半、鉄かぶと、防空ずきん

第二次世界大戦が終わって46年余が経過し、戦争体験が風化しつつあります。今回、戦時下に、練馬の地で人々がどう生きてきたか、国家統制下での苦しい生活の様子や親元を離れての学童疎開の様子などの資料や写真を、平和への祈りをこめて展示しています。是非ご覧ください。

▼入場無料

▼期間中の休室日

月曜日・祝日・1/4・1/24・2/28

練馬区教育委員会  
社会教育課  
(文化財保護係)  
☎ 3993-1111 内線 2766  
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

### 文化財防火デー

心豊かな明日のために

### 文化財を火災から守ろう

昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼損したのをきっかけに、この日が「文化財防火デー」と定められ、全国で文化財防火運動が行われます。区内では、各消防署により、次の3か所で消火訓練を行います。多くの区民の皆様の見学をお待ちしています。

▼日時・場所 1月24日 妙福寺

(南大泉5-6-56)

1月24日 南蔵院

(中村1-15-1)

1月26日 長命寺

(高野台3-10-3)

いずれも午前10時開始予定  
各会場で記念品を差し上げます。



土支田八幡宮にて  
平成3年1月26日



狐の大根取り入れ図絵馬

練馬区登録有形民俗文化財

絵馬信仰が、一般庶民の間に定着したのは鎌倉時代と言われ、室町時代になると、馬の絵だけでなく、いろいろな画面の絵馬が奉納されました。

### ユニークな

## 狐の大根取り入れ図絵馬

文化財保護推進員 石井薫

受験シーズンになると、あちこちの神社やお寺に、合格祈願や合格お礼等の小絵馬が沢山奉納されているのを見かけます。

絵馬は、いつ頃から始まったのでしょうか。大昔の人は、生きた馬をそのまま神様に奉納しました。平安時代の頃になると、生馬を奉納できない人が、馬の絵を画いた額を奉納したといわれます。これが絵馬のはじまりだと言われています。

区内には、約三百枚の大・中の絵馬が各神社やお寺に掲げられています。年代は、江戸時代、それも寛文年間(一六六一〜一六七三)と推定されているものが最古で、それ以降のものばかりです。

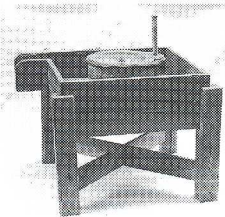
さて、この絵馬の中で大変ユニークなものとして、西大泉の諏訪神社に奉納されてある「狐の大根取り入れ図絵馬」をあげることができます。

この絵馬は色彩が大変美しい上に、江戸時代からの大根の特産地である練馬の地で、お稲荷様のおつかいである白狐七匹(家中総出)が、大根の収穫をしているという、ユニークなものです。

大泉地域の郷土史研究家であった故加藤惣一郎氏は、この絵馬を奉納された加藤彦治郎氏について次のように語っておられました。

「氏は、大泉学園町の篤農家で信仰の厚い人であった。大根の栽培と沢庵漬けの生産を手広くやっていた。また、稲荷講などの世話も熱心にやっていた人だそうです。」

製作年代は明治末期か大正期と思われる



挽き石臼 (直径36cm、高さ20.2cm)

## 郷土資料室収蔵品 シリーズ第10回

### 挽き石臼

重い花崗岩で作られた挽き石臼が、当時それを乗せて使用していた古びた木製のがっしりした台の上に置かれている。

この石臼を見ていると農家の土間でゆつくりと臼を回している人の姿が浮かんでくる。回転する上の臼の平たい窪みに乗せられた小

が定かではありません。大根等の豊作を祈願して奉納されたのでしょうか。現在、諏訪神社の本殿に掲げられているのは複製のものであり、実物は大切に保存されています。

また、今から七・八年前ですが、郷土資料室で郷土資料カードを作成し頒布したとき、「狐の大根取り入れ図絵馬」のカードが、中学・高校の受験期の生徒の間で、受験のお守りとして大変評判になりました。

それは、「絵馬の正面に遠望する富士山は受験志望校を表わし、左上の赤鳥居の神社が受験の時、必勝合格を守護してくれる。」「幸運の白狐七匹(ラッキーセブン)が大根(学習)を授けてくれる。」ということだそうです。これは受験生の間での解釈であり、友人から友人に伝わり、評判になったようです。

下石神井にともる

大山講の灯

文化財保護推進員 長坂淳子

毎年7月26日、下石神井二丁目の畑の中に

この地域の大山代参講の人達15名が長年守つている灯籠が立ちます。青々とした竹と、しめかざりがより神聖さを添えます。御神酒をそえ、拝礼をし、お灯籠立てが終ります。

その後、宴席を囲み、歓談の楽しいひとときを持ちます。豆腐だけは欠かせません。豆腐は大山の名物でもあるのです。

講元の新倉豊吉さん(下石神井二丁目)は



下石神井のお灯籠立て

次のように話しています。

「灯籠がいつ作られたかはつきりしませんが、木目も浮きでており、かなり古いものと思われまます。お灯籠立てから8月16日の「お灯籠じまい」まで、

講の人達が回り番で毎晩火を入れます。今はローソクですが、昔はどうしみを使いました。箕の上にお菓子のをせ、子供たちに分けた時代もありました。子供たちにとっても楽しい行事の一つでした。」

神奈川県伊勢原市にある大山阿夫利神社は「雨降山」と言われ、雨乞いや農作物の神として信仰を集め、江戸時代、大山参りがさかになり、講が普及しました。また、統制の厳しい社会にあって信仰に名をかり、遠隔地へ参詣することは、楽しい憂さ晴らしでもあり、広く見聞を求める機会でもありました。

新倉さんは代参について「毎年、くじ引きで大山まで代表して参詣に行く人を選びます。代参人は講中分のお札をいただいて帰り、4月のお日待ちにお渡しします。今は車で日帰り出来てしましますが、千川のほとりに灯籠を立て、川で水垢離をとり、身を清めてから

麦が、そこに開けられた穴から少しづつ落とされていくと、いつの間にか下の白の周囲に白い粉の小さな山ができてくる。このような情景も大正末期から昭和初期にかけてはだいに見られなくなった。そして戦後の高度成長時代の波によって完全に消されてしまった。

鎌倉時代に花崗岩など堅い石材の加工技術が中国から伝わった。それに伴って渡来した石工集団が挽き石臼も伝えたと推測されている。

庶民の中に挽き石臼として普及したのは江戸時代中期のことである。普及すると、うどん、そばなどを食べるようになり、食生活が豊かになった。

出掛けた時代もあつたそうです。」と話しています。

練馬のほぼ中央部を、練馬、谷原、石神井、関と東から南西に横断し、田無、府中を経て伊勢原に達する富士大山街道は、江戸時代、大山参りでにぎわつたそうです。その道者の中に下石神井の講の人たちも入っていたのではないのでしょうか。

「お灯籠じまいがすむと、まわりの竹は小さく折り、畑に残し、翌年灰にして土に戻します。物を最後までいいねいに扱う精神が生きています。講の皆さんも楽しみにしています。お灯籠が実在している限り続けていきます。」と、新倉さんは静かに語られました。

耕す生活の営みの中から生まれ、地域ではぐくまれ、現在消えかかっている慣習、伝統の中にも、もう一度目を向けてみたい精神文化があるように思われます。

# 文化財保護の

## 理解と認識

文化財保護推進員 林 勇

練馬区には、先人たちが残してくれた数多くの文化財が、古代、中世、近世を経て伝承されてまいりました。その種類は私達の身近にある遺跡や建造物、石造物、寺院、神社、古文書、有形無形の文化財などです。

区では、昭和六十一年三月二十八日、文化財保護条例を制定して、区民に保護、保存の協力を求めています。私たち区民は、文化財に理解と関心を深め保護、保全に協力しなければならぬと思います。

しかし社会情勢の変化で都市化が進み土地開発に伴って、路傍にあった、庚申塔、馬頭観音、地藏尊など民間信仰に関する石仏や石塔が破損や滅失の危機にあるのが現状です。後世に残すべき遺産が一点でも消滅してしまふことは大変残念なことです。

11月6、7日の両日、文化庁主催の文化財愛護全国研究会が、上野の国立博物館で開催され出席する機会を得ました。

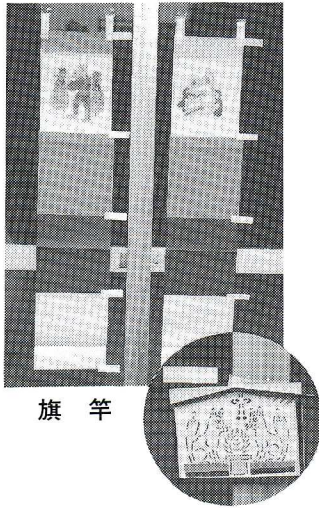
文化庁、文部省の担当官と各県の代表者数人より、文化財保護の研究発表があり、文化

財に対する認識と理解を得るため大変な苦勞と努力をされていることが報告されました。文化財は歴史を知る上で貴重な遺産です。大切に保護し後世に伝えなければならぬ責任が私たちにあるのではないのでしょうか。

# 初午の行事について

文化財保護推進員 鈴木曹元

私が住む桜台は、羽沢、栄町、練馬の地域とともに、昔の地名では「下練馬村」といきました。村の中は字という小さな地域に分かれていて、宿湿化味、出寄、正久保台などの、今では懐かしい地名で呼ばれていました。その頃には、旧暦で諸々の行事が行われていました。今回は、その中から「初午の行事」を紹介いたします。



旗 竿

初午は、2月のはじめの午の日(旧暦の節分の後の午の日)に行われます。明治時代までは、子供が中心になって村の家々をまわり、費用を奉納してもらい、しめ飾りの縄作り等を行いました。また子供たちは、しの竹から旗竿を作り、20cm×113cm程の旗紙の白い所にはキツネの絵、赤緑黄紫の色紙には稲荷大明神と書き、神社に奉納しました。

当日、親は神社に絵馬・御酒・赤飯・油揚げ・蛤・野菜・果物・賽銭を奉納しました。また今の中学生位の年長の子供たちによる、村の守り神やしきたり、性教育等の話が行われました。

その後、大正時代頃から大人(当主)が中心となった祭りが行われるようになり、当番の宿を作って、そこで直会(宴会)を行い、村の行事を決めたりしました。神社に奉納された赤飯・油揚げ・野菜・果物・菓子・賽銭は、子供たちが、自ら分けました。

時代は移って、平成になりますと、当主だけの祭りが行われている次第です。

今でも、初午の旗・絵馬・その他の物は、北町の「神馬屋松原」で販売しています。

以上、資料取材等は、浅見調之進氏、二六会、羽沢町会、桜台1〜6丁目、栄町、練馬1〜4丁目に住む区民の皆様に向ったものです。